

評価項目ごととの意見等及び今後の手立て

別紙1

評価項目	学校関係者委員からの意見	意見等に対する今後の手立て
学校経営	・組織目標を年度始め、中間、年度末に職員全員に周知するシステム作りが素晴らしい。特に課題の抽出と改善を図る取り組みを実施し、継続している点は評価できる。 ・一つひとつの項目に丁寧に取り組まれている。学生確保は、重要な課題。自治体や他団体等とも連携し看護協会も一緒に取り組んでいきたい。 ・職員による平均評価が少なくもこの3年間で上昇しており、今回の評価4.7は、8つある評価項目のうち最も高い値であり、昨年よりさらに良い結果となった。このことは、組織目標等が職員間に浸透していることに加え、中間評価結果を後期の学校運営に活かすなど、これまで丁寧な取組がなされてきた結果であると思う。 ・学校のビジョンや組織目標もきちんと作成され、評価に基づき課題抽出、改善策まで作成され、改善策に取り組まれている。 ・昨年の学校関係者評価委員会での意見が反映されており、より良い学校運営に繋がっていると感じた。今年度は8月に学校関係者評価委員会を開催することができたので意見をもとに来年度の学校運営に活かして頂けるとよいと思う。 ・学校全体で組織目標を共有し、学校運営につなげることができた。	・学校関係者評価委員会から前向きに評価していただいた。引き続き学校関係者評価委員会を開催し、学校経営他、様々な取り組みの実際を示しながら評価をいただき、次年度の学校運営に活かしていく。
学科運営	・第一、第二看護学科の新カリキュラム実施について、分析、評価、対策する取り組みは素晴らしい。今後とも再評価してアップデートしてほしい。 ・課題にもあるように、今後は新カリキュラムについての評価、見直しが必要となるため学生の意見も取り入れながらより良い学科運営に繋げてもらいたい。 ・国家試験合格格率100%すべての学科での全合格は大変評価できる。 ・学科によつては新カリキュラムの運用も進む中、幅広い観点から、より組織的・効果的な取組が模索され改善が図られてきたことが窺われる。 ・ストレス要因として学業を挙げる学生が少なくない（資料13：R5生活実態調査結果）、カリキュラムや教授法、フェロー体制などについて、職員間で、今後も引き続き協議していくことが大切である。 ・それぞれの学科において、非常に細かな学科運営計画、評価がなされている。学生からの意見も多く取り入れられていて大変良いと感じた。 ・助産学科、第一看護学科では令和4年度から、第二看護学科では令和5年度から新カリキュラムが運用開始となっており、科目の重なりの見直しや過密スケジュールの回避ができたことは良かった。 ・COVID-19が5類感染症となり、実習の制限は緩和されてきているが、今後も感染拡大等で制約を受けた場合の代替案については考えておく必要がある。 ・学科ごとでカリキュラムに沿った学習を行い、授業評価も適切に行っている。	・ストレスの高い学生も少なくないことから、看護系では実習記録の見直しによる負担軽減や実習中の他教員の巡回による学生の見守りと支援強化、休養や睡眠の把握及び承認の言葉がけなどプログラムのフィードバックを心掛けていく。歯科系学科では、昼食時、放課後等教室の巡回を行い、個に応じたフィードバックを行い、人間関係トラブルを未然に防ぐようにした。 ・ストレスチェックについては、方法を見直し、即時的に本人に結果が届くようにシステムを導入する予定。速やかな対応が実現できれば早い段階でカウンセラーとの連携を図ることでもでき、場合によっては専門家へつなげることも可能となる。今年度中の導入を予定している。 ・Covid-9の感染拡大等による実習の制約等に関しては、学内実習に切り替えて学ぶことができるよう、目標到達のための課題を精選し、臨地に近いシミュレーション教育等の展開ができるように教材を整備しておく。
入学・卒業対策	- 令和6年度の歯科衛生学科の入学者の目標到達は評価できる。どの学科も令和5年度よりも入学者が増加している。募集活動に尽力した成果が現れたと思われる。今後も継続することを期待する。 - 全国的に少子化傾向が進む中にあるにもかかわらず医療関係業務に対する社会的ニーズはむしろ高まっていることを考えると、入学定員はしっかりと確保しておく必要がある。そうした認識のもとに、志願者増に向けた各種取組もなされている。 - 全ての学科において令和5年度の国家試験合格格率が100%であることは、それだけ丁寧な指導がなされていることとの証左でもあり、衛生専門学校の「強み」として高校生等に、大いにアピールできる情報であると思う。	・人材確保・就業支援対策部会を中心に、インスタグラム等のSNSを用いた自校のアピール方法を新たに模索している。入学生アンケートからも本校を選択する際に活用した情報の上位にHPがあり、デジタル媒体の方が親しみやすい傾向にある。引き続き、視覚的に情報発信できる取り組みに注目し、入学希望者の確保につなげる。

評価項目	学校関係者委員からの意見	意見等に対する今後の手立て
入学・卒業対策	・少子化や大学志向が強くなってきている時代で積極的に高校訪問など行い、入学生増にむけて努力されている。昨年より入学者が増えている学科が増えていることも評価できる。 ・多くの学科で志願者数は増加しており、3年ぶりにオープンキャンパスが開催できたことの効果が出ていていると感じた。 ・入学者の確保は今後も課題になると思うので、引き続き学生確保のための様々な取組が必要だと考える。若い世代に職業を知ってもらえるような機会があると良いと思う。 ・令和5年度は全ての学科で国家試験合格率100%であり、素晴らしい。母校として誇りに思う。 ・人材確保・就業対策部会を中心に学校全体の取組組みを行うことができた。また、学科ごとでは学科の特徴を踏まえ取組組みができた。 ・学生支援への取組組みは十分できているし評価できる。学生個々の学力面、精神面へのフォローアップは今後も慎重に取り組んでほしい。 ・多様な学生が在籍しており、今後いかに指導・支援していくかということが大きな課題の一つとして挙げられている。そうした中で、例えば「こころの相談室」を利用しやすくなるなど、学生目線に立った取組組みがしっかりと行なわれていくように思う。学校教育段階という「教育相談」に類する職員研修も、今後その重要度を増すかもしれない。 ・「新入生による学校生活を語る会」などを通して得られる学生からの各種意見に対して、実際に丁寧な検討がなされている。 ・各学科国家試験100%を目指して指導されている分、学生への負担が重くなりすぎないかも考慮し、心身共に健康で学生生活が送られるよう支援されている。 ・こころの相談室の利用は前年度と比較し増加しており、カウンセラーへの取り次ぎ方が変更となったことで気兼ねなく利用ができるようになった、良い効果と言えると思う。 ・様々な問題、課題を抱える学生は増えてきているため、今後もカウンセラーと連携をとり情報共有しながら安心して学校生活が送れるようサポートしていくことが必要だと思う。 ・教員の不安についてもカウンセラーに相談できる体制作りを進めていけると良いと思う。 ・学生指導においては、ストレスチェックや生活実態調査などを実施し、その結果を踏まえたきめ細かな対応を行うことができた。	・進路ガイダンス等で高校へ出向き、助産師、看護師、歯科技工士、歯科衛生士の仕事内容について伝えている。近年、中学生を対象にした命の授業や職業選択の授業などに参加する機会を得ており、中学生へもアピールできた。今後は、出前授業など近隣の中学校ほか、要望があれば小学校へも出向くことを検討していく。
学生生活支援への	・多様な学生が増える中、個々に合わせた指導方法を行うことが求められている。そのため、学生の個性性に応じ、視覚的に示しながら指導をしたり、反復指導をしたり、時には保護者と連携を図りながら学習面、精神面のフォローを行っている。日頃は、学生からの要望はなくても、教員から心配な学生へ声をかけ、カウンセラーにつなげている。また、指導困難事例や好事例を学科で検討し、より効果的な介入を共有するなどしている。 ・今年度は新カリキュラムによる学生が卒業を迎えるのため、カリキュラム評価につなげる必要がある。学生アンケート等活用し、改めて学生の社会人基礎力の修得やディプロマポリシー到達のための支援を継続する。 ・教員のメンタルケアとしてカウンセラーへの相談可能であるため、職員に対しても利用を促していく。	・多様な学生が増える中、個々に合わせた指導方法を行うことが求められている。そのため、学生の個性性に応じ、視覚的に示しながら指導をしたり、反復指導をしたり、時には保護者と連携を図りながら学習面、精神面のフォローを行っている。日頃は、学生からの要望はなくても、教員から心配な学生へ声をかけ、カウンセラーにつなげている。また、指導困難事例や好事例を学科で検討し、より効果的な介入を共有するなどしている。 ・今年度は新カリキュラムによる学生が卒業を迎えるのため、カリキュラム評価につなげる必要がある。学生アンケート等活用し、改めて学生の社会人基礎力の修得やディプロマポリシー到達のための支援を継続する。 ・教員のメンタルケアとしてカウンセラーへの相談可能であるため、職員に対しても利用を促していく。
教職員の育成	・教員の能力（指導）は学生の学力向上に直結することから今後もさらなるスキルアップを図っていただきたい。今年度は研究も実施できると良い。 ・カリキュラムの改編が進んだ学科をはじめ、どの学科においても、指導力向上のみならずハラスメント防止等も含めた幅広い観点から教職員の育成が図られたものと思う。 ・授業参観や研究を行うことができないケースもあったようだが、それらが何に起因するのかを改めて考察し、今後に生かせることとよい。 ・忙しい中でも、各教員が研鑽に励まれていると感じる。余裕を持って指導に当たれるよう十分な体制が整えられたい。 ・全ての学科で国家試験の合格率は100%であり、先生方の教育内容が良いと感じた。 ・昨年度も多くの先生方が研修やセミナーに参加されており、知識・技術の向上、キャリアアップへの取組組みが継続されていると感じた。 ・研修への参加と伝達、授業参観などの積極的な取組組みにより教員の質向上に努めている。	・研究倫理審査会の開催案内などを通して、研究への取り組みを考えるきっかけとしている。 ・また、令和5年度は、新カリキュラム運用により新たに授業内容を構築する必要があるため、十分な授業研究を行える時間的ゆとりがなかった。しかし、今年度は学科を超えた授業参観、授業リフレクションに力を入れ、効果的な学習ができるような教育方法を見出す努力をしている。

評価項目	学校関係者委員からの意見	意見等に対する今後の手立て
管理運営・財政	・今年度も災害対策や実施訓練は継続してほしい。ハラスメントや防犯対策も継続実施してほしい。（予算の確保もあるが） ・「新入生による学校生活を語る会」などを通して得られる学生からの各種意見に対しても、実際に丁寧な検討がなされている。（再掲） ・地震や、地球温暖化に伴う自然災害への備えが今後これまでに以上に必要になるかもしれない、そうした観点からの点検や整備を今後も進めていくことが大切である。 ・予算には、限りがありすべてを望み通りにはいかないであろうが、学生が安全に、学生生活が送られるようお願いしたい。 ・学生の意見が取り入れられていて良い。 ・3年ぶりに避難訓練、消防訓練を実施し、学生や教員の安全確保のための取り組みが行われているとわかった。飲料水や簡易トイレの確保もできているとのことだが、用意だけでなく、見直し、更新していくことが重要である。 ・ICT機器の利用が拡大されており、サイバー攻撃への対処、訓練も必要ではないかと思う。 ・コロナ禍により実施できなかった避難訓練を再開し、教職員及び学生への災害対策を実施することができた。 ・ハラスメント防止対策として、ガイドライン等を実情に合わせてより分かりやすく、使用しやすいものへと見直すことができた。	・9月27日に「学校における防災への取り組み状況確認」というテーマで職場研修を実施。 ・教務室の写真等用い、危険箇所を考えたり、ワークシートに取り組むなど、一人ひとりが防災への意識を高め、考えることができた。本研修を通し、学校安全、危機管理意識につなげていく。 ・校務支援システム導入とともに学生の安否確認がICT化されることとなった。本格稼働は令和7年度からであるが、今年度は、テスト入力等順次実施していく。 ・岐阜県の情報セキュリティ対策として、職員は毎月情報セキュリティ研修を実施している。学生のタブレット、パソコンに関してはWindows10のMicrosoft defenderが搭載されており、各学科の責任により定期的な更新を実施、セキュリティ対策を実施している。
施設設備	・図書で勉強する傾向が最近の医療系学生は少なく、動画やアプリシステムを利用している。教科書だけでなく動画配信サービスを検討するのも良いと思う。 ・図書室の利用促進については、今後も課題となると思う。 ・シミュレーション教育環境を整備するなど、限られた予算内とはいえ、できるだけ教育環境の向上を図ろうと努められていることが窺われる。 ・ICT機器の利活用に向けた取組も、計画的に推進されていると思う。 ・古い施設ではあるが、少ない予算の中で必要な備品等揃えられている。医療DXに向けて必要の人材を育成できるような施設環境がさらに整うことを願う。 ・ICT機器の活用をさらに進めることで、教員の業務の効率化や学生の学習効果の拡大につながれると良い。 ・5か年計画に基づき、備品が整備されており、学内での学習もより充実したものになっているのではないと思う。特に、助産学科の分娩介助トレーニングモデルやシミュレーター、新生児心肺蘇生法訓練モデルの導入は、実習の制限により、十分に経験できない技術を学ぶツールとしてとても良いと思う。 ・備品は5か年計画を立て、計画的に必要なものを整備できるように整えられている。 ・様々な場面でペーパーレス化できる所が増えたと良いと思う。	・視覚教材を用いた授業方法の工夫や場面設定、シミュレーションを通して、リアル感のある教材の工夫を行っている。書籍の活用については苦手な学生も多いが、実習期間中、どのような参考書が役立つかなど教員から声をかけている。引き続き、内容が解かりやすいもの、最新の知見に関するものなど計画的に蔵書の購入を進めていく。 ・令和6年9月に校務支援システムを導入し、令和9年度から本格稼働を予定している現在。ICT委員を中心となり、機能を十分に活用できるように準備を進めている。校務支援システムの本格稼働により業務のスリム化やペーパーレスにも効果が期待される。
地域社会貢献活動	・昨年度の進学ガイダンスや出前授業、親子歯磨き教室など有意義な活動は評価できる。 ・社会人になってからのボランティアと学生が実施するボランティア活動では内容も意味合いも変わってくると思うので今後も継続していただきたい。 ・看護協会のイベント等でボランティアの協力依頼を検討している。案内等を送らせて頂くこともあるかと思う。協会を活用していただくとともに学生に看護協会やナースセンターを認知してもらうとよいと思う。 ・小学生や中学生、高校生を対象とした授業を行うなど、広く職業への理解を深めるとともに、将来の担い手育成にも繋がる取り組みが積極的に展開されているように思う。	・ボランティア活動については、学校へ依頼等ある場合は学生へ伝え、主体的な参加を促している。今回、看護協会からご提案のあったボランティア活動についても看護協会の活動や役割を知る貴重な体験となる。機会があれば、学生にボランティア参加を促したい。

評価項目	学校関係者委員からの意見	意見等に対する今後の手立て
地域社会貢献活動	・なかなか準備が大変であり、また即時的な効果が浮かび上がりにくいとは思いますが、学校や職業のPRに資するものと思う。 ・コロナウイルス感染症が5類移行になり、外部との交流もできる状況になってきた。学生にはより多くの事を経験し、卒業しても地域活動に積極的に取り組める専門職として 育て欲しい。 ・小・中学生を対象にいのちの授業や出前授業を行うことは、自分たちの職業や学校を知ってもらいやすい機会だと思うので、今後もぜひ継続して行ってほしい。 ・ボランティア活動等に参加することで、新たな発見や興味が出てくることもあると思うので、忙しい学生生活ではあるが、積極的に参加してもらいたい。 ・学科ごとで様々な形で地域活動に参加することができている。	第二看護学科では、授業科目の中でボラティア活動を位置づけ、自ら活動計画を立案し参加している。この活動を通して、リフレクションから地域の一員として、社会貢献を考える機会となっている。